

「地域を守る。」 それが消防団の任務です。



水害から身を守るために！

～町職員が消防団員として伝える～

最新の防災情報は自分で調べる！

きたむら こうすけ
下津井分団 北村 耕助さん

テレビやアプリなどを使って、自分で最新の防災情報を収集することで、危険を事前に予測し、迅速な避難に繋げることができます！



いつもと違うと感じたら即避難！

よこやま こういち
十川分団 横山 光一さん

土砂災害も河川の氾濫も、アツという間に状況が一変します。何か普段と違うと感じたら、迷わずすぐに避難するようにしてください！



自分たちの地域を、一緒に守りませんか！

四万十消防団では、随時、消防団員を募集しています。現在、さまざまな職種の方が、性別を問わず消防団員として活動しています。団での活動は、地域のため、そして自分自身の成長にも繋がりますので、興味がある方はご連絡をお願いします。



お問い合わせ先/四万十清流消防署 ☎22-0001

高知県防災アプリ

災害から身を守るためには、最新の防災情報をいち早く入手する必要があります。こちらの「高知県公式防災アプリ」を、ぜひダウンロードしてみてください。便利な機能が盛りだくさんです。



お問い合わせ先/危機管理課 ☎22-3280

私たちの身近にいる救世主

広大な面積を有し、山・川・海の大自然に恵まれた四万十町。その反面、火災や自然災害から、この町の安全を守り抜くことは、決して容易なことではありません。もしもの時、消防職員や行政職員だけでは、住民の皆さまの生命や財産を、守り抜くことはできません。そのような時、地域の救世主として頼れる存在となるのが、消防団や自主防災組織といった、地域に根差した防災活動に取り組み皆さんです。

彼らの最大の強みは、「地域を知り尽くしている」ということです。誰がどこに住んでいるか、また河川の水位がどこまで上昇したら危険なのか、さらには増水した時、どこから冠水が始まるのか。そういった地域の細かな情報を、彼らは知っています。今までの経験と知識、そして日々培ってきた団員同士の団結力で、これからも私たちの地域を守り続けてくれるのです。そんな「消防団」の皆さんが、私たちの身近にいることを、決して忘れてはいけません。

実は私も

消防団員です

四万十消防団は、本部と地域ごとの18の分団で組織され、団員数は335名となっています。(R6.4.1時点) その中には、今年入団したばかりの新入団員から、在籍年数40年以上というベテランの団員まで。

「えっ、あの人も消防団員だったの!？」という方もいるかもしれません。そこで、皆さんの身近にいる普段とは違った消防団員としての顔を持つ方々をご紹介します!



普段は

キャスター!?



松葉川第2分団

おお さき ひろ かず
大崎 弘和さん

普段は

SUP
インストラクター!?



窪川分団

なか した み わ
中下 美和さん



Q. 入団したきっかけは?

地域の先輩団員からずっと入団を勧められていたが、「災害時は仕事が優先だから」と、断り続けていた。それでも「可能な範囲で構わないから」と、優しく声を掛けていただいたので、入団を決意した。

Q. 消防団員として思うことは?

仕事も地域密着だし、消防団の活動でも地域の幅広い年代の方と知り合えて、良い機会となっている。今後、団員としても、もっと地域に貢献していきたい。

Q. 入団したきっかけは?

趣味の「アウトドアサバイバル」を通して「防災」に興味を持った。その後、防災士や女性防災リーダーの研修を受講していく中で、女性として、地域に根差した防災活動がしたいと思って、今春、入団した。

Q. 消防団員として思うことは?

先日、初めて水門点検に参加した。水門の位置や操作方法など、学ぶことはいっぱいですが楽しい。消防団活動の中で、地域のことをもっと知りたい。

普段は

ラーメン屋!?



田野々分団

なが やま ひろし
永山 博さん

普段は

道の駅の調理師!?



十川分団

たけうち ゆう た
竹内 佑太さん

Q. 入団したきっかけは?

以前の職場の先輩に、消防団に入らないかと誘われ、入団した。同じ職場にいた同級生も、既に入団していたので、特に迷いもなかった。

Q. 消防団員として思うことは?

消防団での活動を通して、火災や水害、人命救助に対する意識は高まっている。今後も、出動できる活動には積極的に参加して、さらに経験を積んで、南海トラフ地震に備えたい。

Q. 入団したきっかけは?

高知市から地元に戻ってきた時に、知り合いの団員に消防団へ誘われた。地元で何か役に立つことができるならと思い、入団した。

Q. 消防団員として思うことは?

機械器具点検や年末警戒など、消防団での活動を通して多くのことを学んでいる。万が一、職場で火災などが発生した時、すぐに自分が対応しなければいけないという意識が芽生えてきた。